論文の書き方と形式 2004 年度版（工事中）

これから論文の書き方と形式について述べます。これからみなさんがレポートや論文を書く際に参考にしてください。

Ⅰ． テーマの選定；

１年生の段階ではとりあえずフィリピンに関係するテーマを任意に選んでください。取っ掛かりとして興味のあるものを、歴史、経済、政治、社会、文化などの分野で選定するか、民族衣装、音楽、料理、歌、貧困、自然などの特定のテーマで選択するかは自由です。とにかく何かに取り組んでください。手探りで一度論文を書いて、教員に添削されて帰ってくると、はじめて自分の書いたものの問題点に気づくことになります。以下、フィリピン語専攻１年生の前期レポートを読み終わり、全体を見通して問題となる点について指摘し、よりよい論文の書き方をめざしたアドバイスを書き記したものです。

「論文を書く」ということは「大学で学ぶ」ということを凝縮した学びのかたちと考えます。より良い文章が書けるようになるには、自分で問題を見つけ、その問題についての他人の議論を知り、自分なりの考えを積み上げていく必要があります。具体的には、疑問に思ったことについて図書館で調べ、あなたの疑問を他人はどのように考えているのか、なるべく文献を多く調べていく必要があります。そのなかであなた自身はモノの見方や考え方を身に付けていきます。そしてあなたの疑問をどのように考えていけばいいのか、そして考えたプロセスをどのように文章にしていけばいいのかを体得することになります。

以下は、フィリピン語専攻１年生にむけたメールで、論文作成の注意点について書いたものです。このメールにしたがって説明を進めます；

フィリピン語のみなさん、

夏休みがはじまって 10 日ほどになりますが、いくつか前期レポートのことや夏休課題論文についての質問メールがきています。それらの質問は、論文の書き方に集約できます。

みなさんがいま抱えている問題は、１．テーマの選択、２．テーマの調べ方、３．議論の展開のしかた、４．論文の形式、というふうに分類できます。

１のテーマ選択はみなさんに任せるとして、２以下はしっかりと訓練して身に付けていかなくてはならない点です。アカデミックな議論は非日常のレベルで行われるので、そこで用いられることばはどうしてもみなさんがなじみの薄い言葉になってしみます。概念が十分に理解できていないことばを使うというのは、なんとも居心地の悪いものですから、自分がなじんで使いこなせるまでにはチグハグ感がそれらのことばにつきまといますが、それを乗り越えて、自分なりの表現手段を身に付けましょう。

２．なにをどのように調べるのか？：データ収集と分析方法

１、２年生では単行本以外のネタを使っている人はほとんどいません。基本的なことは単行本から得られるでしょうが、問題はそれで十分に自分の疑問が解消されるかという点です。もしもみなさんがその先に進もうとするなら、２つの方向を同時にたどる必要があります。ひとつめはデータ収集です。フィリピンの特定の資料を問題にするわけですから、どれだけ多くのデータ（資料）を集めるかが、大きなポイントになってきます。もうひとつは方法論です。データは集めたが、それをどのように分析していけばいいのか、そして分析結果をどのように自分の主張へと昇華させるのか、という問題です。方法論の勉強にはフィリピンだけを取り扱った文献に限らず、同じ学問分野であれば、どこの地域のデータを扱った論文でも役に立ちます。この２方面での問題アプローチを試みてください。

しかしまず第一歩は、あなたが興味をもった分野で、これまでどのような研究がなされてきたかを調べるために、雑誌論文さがしへと向かってください。まずはあなたが読んだ単行本の文献目録にある雑誌論文を探してみましょう。雑誌探しには、図書館だったらどこにでもある、『学術雑誌総合目録　和文編』紀伊国屋書店 や『雑誌記事索引　人文・社会編』国会図書館、逐刊（1985- CD-ROM 版） が役に立ちます。

３．議論をどのように展開させていくか？

このPDFは FinePrint pdfFactory 試用版で作成されました http://www.nsd.co.jp/share/

レポートや論文は単位を取るために書くものではありません。あなたが現実の世界をどのように分析して、対処していくかを見極めるためにあります。そして自分が抱えた問題に対して、読者を説得するようなかたちで表現される必要があります。でもまだ1、２年生ですから、稚拙でもいい、ただ自分の疑問を解いていくプロセスがわかるような論文を書くことを望みます。アカデミックなことばをこれから学んでいく必要がありますが、それまでは稚拙でもいいから自分の言葉で、論文のなかで自分の議論を積み重ねていくような展開のしかたが必要だと考えます。ただ本を写したようなその場しのぎに単位を取るためのレポートや論文は最初の読者であるわたしを感動させることはできないので、書くあなたも、読むわたしも互いにつまらない時間の浪費ですよね。

自分が抱いた問題を、どのように自分なりに調べ、先人が考えたことを参考にし、それらを論文のなかで紹介し、それに対して自分が考えたことを文章に表現しながら議論を展開してください。それでも十分納得できないから次の問題に取り組むというみなさんそれぞれの思考のプロセスを読者が後追いできるようなかたちで表現してください。

しかしわたしがここで「自分なりに表現する」ということは、自分の限られた経験で書いていくということではありません。ある問題に対する直感的なインパクトは最後まで大切にはしますが、その問題に対して先人がどのように取り組んできたか、そしてどのような議論を展開して、どのような結論に達したかをあなた自身がまず調べる必要があります。あなたの論文のなかでこれら先人の議論や見解は十分に紹介し、批判的に吟味してください。それがあなたの論文のなかでの議論展開のほとんどを占めることになります。

４．論文の形式について：

論文の形式はこれまでも口うるさく言ってきました。その甲斐あってか、授業にちゃんと出席している人はそれなりに努力していました(まだ満足行くほどに完成されている人はいませんでしたが)。形式は問題を整理する技術ですから、ここで学ぶよりほかに方法はありません。論文の形式はアカデミックな世界での作法のようなものです。その作法にはこれまで先人が最も洗練されたかたちを考案して、現在のような「かたち」に作り上げてきたものです。大げさに言えば、論文の形式に学問の歴史が詰まっているということもできます。

つまらない論文といい論文は、一見するだけでは明確に違いがわからないでしょうが、形式を踏襲していない論文は、良いか悪いかの議論以前の問題を抱えています。以下でわたしがみなさんに指定した形式はひとつのかたちにすぎません。それぞれの専門分野には独自の形式がありますが、現在の時点ではわたしの形式をマスターしてください。

前期レポートでは、タイトル,名前、目次、本文、註、文献目録の順序はなんとかできていたように思います。しかし細かいところでいくつか共通する誤りがあります。ワープロソフトを使っているのに、ページ設定、書式設定、文章構成などができていません。　本文と註、文献目録の行間、間隔は異なるかたちで設定しなくてはなりませんが、何度言ってもできていません。今後そのようなことのないように気をつけてください。

4ー1．“はじめに”の書き方の定式化

また、「はじめに」と「結論」の書き方が十分にできているとは言い難い。

「はじめに」ではまずあなたの問題を明確に提示し、その問題が先人によってどのように議論されているかを開陳する。つぎに段落を変え、「以上の議論を踏まえ本稿では」で始まる文章のなかで、これから自分がやることはなにか具体的に述べていきます。「以上の議論を踏まえ本稿では」につづいて、一行で、この論文で何をやるのかを述べる。

つぎに「具体的には」以下の文章では、「まず」「つぎに」以下で具体的にどのような資料を、どのような視点で分析するのかを述べます。つぎに「最後に」以下では、論文全体をとおして自分が最も主張したいこと(すなわち結論)を一行で述べてください。あらかじめ読者にこれからいったい何をやって、何を言いたいのかを明確にしておきます。

「はじめに」での注意ですが、みなさんがよく使っている「考えてみる」とか「考察する」とかいう表現は具体性に欠けるので使わないようにしてください。

「はじめに」の書き方は重要です。これから自分はなにを、どのように分析し、問題点を洗い出し、議論していくのか？そして問題点とあなたの考えを読者に簡潔に伝えるにはどうしたらいいのか？難関です。そこで以下のように「はじめに」の書き方を定式化することを薦めます。実践してください。

このPDFは FinePrint pdfFactory 試用版で作成されました http://www.nsd.co.jp/share/

“はじめに”の書き方の定式化

以上の議論をふまえ本稿では、
具体的にはまず、
つぎに、
さらに、
最後に、A は B であることを提示する。

例：

狩猟採集社会と農耕社会の交流：相互関係の視角

小川英文

はじめに

本稿では熱帯地域の考古学で議論されている、狩猟採集社会と農耕社会間の交換をめぐる議論について考察し、東南アジア熱帯雨林地域における考古学資料をもとにしながら、技術的背景が異なる社会間の交流のあり方について考える。先史時代における資源の交換は、自分たちの集落を取り巻く微小環境では入手できない食料などの生活必需品から、装飾品など遠くから運ばれてきて付加価値が高くなったものまでさまざまである。特定の資源についての情報と集団間のネットワークをもとにして近場から遠距離まで、モノをとおした交流が存在したことを証拠づけるさまざまな考古資料が得られている。しかし、交流や交換の実態には単なるモノの交換をこえた、考古学で得られる証拠からは窺い知ることのできない諸側面がある。世界の熱帯地域における現在の狩猟採集社会と農耕社会との間にみられる相互関係には、交換をベースとした経済的、社会的そして政治的関係があることが、文化(社会)人類学的研究によって明らかとなってきている。これまで東南アジア考古学では、なぜ狩猟採集社会が現在まで存続してきたのか、という疑問に対して、さまざまなモデルが提示されてきた。そして文化(社会)人類学の成果を反映して最近議論されているのが、狩猟採集社会と農耕社会間の食料、土地、労働力の交換を媒介とした「相互依存関係モデル」である(註 1)。

→最初の段落では、

このモデルが提出されるや、考古学者に人類学者を交えてその妥当性が盛んに議論されるようになった。その背景には、当時(80 年代後半)、 *Man the Hunter* (Lee and De Vore 1968) 以降、世界の狩猟採集社会研究を席巻した、自己完結的に生業を営む「伝統的」狩猟採集社会像に対する疑問と、そこから発展した「伝統主義 vs 修正主義」論争の争点に、このモデルの論点が直接関わっていることがあった。この論争はその後、文化そのものに対する研究者の見方に大きな変革を迫るものへと発展するが、同時にこの論争の解決には、狩猟採集社会の外界との接触・交流を、歴史過程のなかで追求する以外にないことが確認され、その研究分野である考古学に対して、人類学から大きな期待が寄せられるようになった。ひとときの盛り上がりに比べると、論争は現在一応の終結をみたかのような静けさを迎えているが、論争の行方はむしろ考古学による検証にゆだねられたと考えたほうがよいであろう。それゆえ考古学がこの期待に対して果たすべき責任は重い。人類史のなかで「文明」へとは向かわなかった狩猟採集社会の生存戦略のひとつとして、交換のもっている(もっていた)意味が、考古学の内外から同時に問われているといい換えることができる。

→

以上の議論を踏まえ本稿では、東南アジアの先史時代において、狩猟採集社会と農耕社会が、交換をとおして経済的・社会的交流を維持してきたとするモデルを検討することによって、熱帯雨林狩猟採集社会の歴史の再構成に必要な理論的枠組を模索する。

→読者が全体を見渡せるように、なにを問題とし、なにを主張したいのか一行で述べる

具体的には、まず東南アジア考古学における相互依存関係を示唆する考古学的状況を、フィリピンの調査事例を用いて検討する。**つぎに**、これまで狩猟採集社会と農耕社会の相互関係について提出された３つのモデルの問題点を検討することによって、狩猟採集社会と農耕社会の同時存在の歴史が、「文明」によって周辺化されていると同時に、狩猟採集社会の歴史の研究枠組も構築されていない現状を指摘する。

このPDFは FinePrint pdfFactory 試用版で作成されました http://www.nsd.co.jp/share/

→具体的にどのような問題を、どのような視点で分析するのか述べる

最後に、「相互依存関係モデル」の適用が、「文明」によって隠蔽された東南アジア狩猟採集社会の歴史に、新たな研究領域を拓くものであることを提示する。

→「最後に」以下では、本稿の結論で一番主張したいことを簡潔に述べる

4ー2.　“本文”の書き方：問題と正面から向き合う

つぎに、本文では各章や各節で、「はじめに」で述べたとおりに資料を提示しながら、分析しながら議論を進めます。要点は、「はじめに」で設定した問題に対して、正面から

4ー3.　“結論”の書き方

「結論」の最初では、まず「はじめに」で設定した問題をどのように分析して、どのような結果が得られたかをまとめておきます。読者はうわのそらで読んでいる場合がありますので、きちっとまとめてあげるわけです。そうすると読者の頭に明確に残るからです。まとめが終わると、次の段落で、自分の主張を補強したり、今後に残された問題点、今後の展望などを述べて終わります。

例：

III. 結論：同時存在の考古学が提示する可能性とはどのようなものなのか？

狩猟採集社会と農耕社会という、技術的背景が異なる社会間の交流を視点として、先史時代から現在に到る両集団の同時存在を想定し、その可能性を、与えられている考古資料とこれまでに提出されているモデルを材料として検討した。そしてその過程で、この議論にはさらに重要な問題提起があることが明らかとなった。それはいまだに根強く残る、外部の世界から「隔離」され、「汚染」されていない「純粋な」狩猟採集社会像に対して見直しが迫られているというものであった。そしてこの見直しの論点のエッセンスには、カラハリ論争の主旨と相通ずるものがあることが理解できた。また同時に狩猟採集社会と農耕社会の交流の視点を検討する過程で、研究者の側からとらえたアグタの姿が、「残虐な野蛮人」から「高貴なる野蛮人」へ、そして世界システムのなかで周辺化された現実を生きる狩猟採集社会へ、という変遷をたどってきたことが明らかとなった。過去 60 年間に現れたそれら 3 枚のアグタ像は、それぞれ狩猟採集社会像の新たな側面を現前させているかのような違いを提示している。しかしその陰で、「野蛮な他者」として、われわれの一方的なまなざしを受ける存在としての狩猟採集社会像が、時代を超えて繰り返し再生産され、現在でも払拭しがたい力を秘めて残存し、消費され続けていることも理解することができた。

われわれ考古学者はこれらの理解を確認した上で、「文明」の方向性とは別に熱帯雨林狩猟採集社会がたどった歴史を再構成する理論的枠組を構築しなくてはならない。現時点では理論構築への道のりは遠いが、そのためのいくつかの道標については、3 つのモデルを検討する過程でみつけることができた。その第 1 は、東南アジアの先史時代における狩猟採集社会と農耕社会の相互依存関係を前提とした研究の方向性が、今後も有効な展望となりうることである。自立性や純粋性という狩猟採集社会に与えられてきた「固有の立場」を問い直し、相対化する際、交流という相互関係の概念がもつ積極的意味が問われなくてはならない。「固有の立場」はけっしてアグタの自己主張によって獲得されたものではなく、「文明」の側によって与えられたものである。そして与えられた「固有の立場」とは「未開」の状態である。こうして熱帯雨林狩猟採集社会は、先史時代と現代の双方において、「文明」と対峙する関係のなかで固有性を付与され、同時に歴史において、人類の初源的段階に位置づけられた。しかし、農耕以降の人類史のなかでの狩猟採集社会は、主役の座を新たに出現した農耕社会に譲り、あたかも存在していないかのように、その歴史を隠蔽(すなわち抑圧)されてきたのである。アグタ・農耕社会間の交流、そしてそれによって引き起こされた両社会の変容の歴史を再構成する試みは、固有性の付与や歴史の隠蔽が、誰によって、どのような意図をもってなされてきたかを明らかにしていく試みでもある。

第 2 は、日本の考古学は、「文明」へと向かう人類の足跡の物語以外の語り口をもっていなかった、ということである。日本の考古学はこれまで、先史時代の社会の諸要素である考古遺物のなかから、各時代の先端的要素を見出し、それら（中略）

以上、前期レポートの評価と再度の注意点です。すでに前期レポートを回収したひともいますが、コメントを付けてい

このPDFは FinePrint pdfFactory 試用版で作成されました http://www.nsd.co.jp/share/

ますので、その指示に従って書き直しをお願いします。後期授業が始まって返却しますので、速やかに書き直して提出してください。夏休み自由課題についても、論文を書く人は、上の注意事項を考慮しながら、欠くように努力してください。

この項の最後に、学問をする導き手として、刈谷さんの本を読んでみてください。

刈谷剛彦

2002　『知的複眼思考法－誰でも持っている創造力のスイッチ』、講談社

II.　論文の形式と書式

論文のかたちはとても重要です。「統一された書式」で書かれた論文は、まず読みやすい。そしてなによりも形式と書式が整った論文は、あなたがアカデミックな訓練を注意深く積んできたことを如実に表すカガミです。

以下、とても細かい注意事項が長く続きますが、1 年生ではじめて知り、４年生で習熟するよう努力してください。

１．書式設定

まず、論文の書式設定を、MS-Ward を使用していることを前提に説明します。論文を書き始めるに際して、MS-Ward の白紙のファイルを開き、以下の書式設定を行ってください。

注意；まずは本文の書式を設定します。註と文献目録の文字の大きさ、行間と間隔は本文と異なります。

ページ設定：

MS-Word のファイルメニューを開いて、ページ設定をクリック→余白を上下左右すべて 20mm に変える→用紙は A４を選択する

フォント設定：

文章全体を反転させてから、メニューバーでフォントを MS 明朝にし、そのまま続けて Times New Roman に設定

こうしておくと、和文は MS 明朝、英文は Times New Roman に自動的になる

文字の大きさ：

同じく文章全体を反転させたまま、メニューバーで文字の大きさを 9 ポイントに設定

行間と間隔設定：

同じく文章全体を反転させたまま、メニューバーで書式→段落を選択→「インデントと行間隔」のところで、まず「配置」を「両端揃え」にする→「間隔」のところで、行間を最小値、間隔を 16pt に設定→つぎに体裁のところに行き、改行のときの処理で、禁則処理にチェックする

その他の注意；

◎ **英数、記号は基本的にすべて半角**です。和文と英文の混合した文章では、文字ごとに全角と半角、和文、英文を使い分けるのは大変ですが、簡単な方法があります。全角和文で打った文字や記号は、スペースキーで半角や英文に変換されます。スペースキーで変換されない場合は、コントロールキー(以下、CTRL)を押したまま、P を押すと全角英文、その次に O を押すと半角英文に変換されます。ついでですがカタカナにするには、CTRL＋I です。

◎ **註と文献目録**の書式は本文と異なりますので、改めてあとで説明します。

◎ **用紙サイズ**；A4 サイズを用います

２．論文のかたち

論文は以下のかたちにあわせて書くようにしてください。

1 枚目には、論文タイトル、目次、名前だけを書いてください

タイトル：本文よりも文字の大きさを大きく、10.5 ポイントにして、中央に配置。さらにフォントをＭＳゴシックとし、ボールド（太字）にする。

目次；目次は以下の形式・順番にしてください。**中央寄せ**にする。

はじめに

このPDFは FinePrint pdfFactory 試用版で作成されました http://www.nsd.co.jp/share/

１．
２．
・
・
N
結論
註
文献目録

名前：所属、学籍番号、名前を９ポイントで右寄せ。

２枚目から、“はじめに”、“本文”と書き続けます。
“はじめに”、”本文”、”結論”の書き方については、すでに上で述べたとおりです。

III.　註と文献目録の提示のしかた

ここでは註と文献目録の形式について述べます。
註、文献の提示のしかたは以下の方法で統一してください。

註は、文中で十分説明しきれなかった事柄を文末に提示することによって構成されます。文中では(註 1)、(註 2)というかたちで明示し、文末の註の項で、番号順に提示します。

文献目録とは、文中で引用した文献をまとめて提示する場です。探しやすいように、**著者(編者)苗字の頭文字をアイウエオ順か ABC 順に並べて提示**します。

◎ **註、文献目録の書式設定**：PC のワープロを使っている人は以下の順序であらかじめ書式を設定してください
フォントを MS 明朝、Times and Roman、文字の大きさを８ポイントに、さらに**行間を最小値、間隔を 12pt** に設定（MS Word の場合は書式→段落の間隔のところで、行間を最小値にして、間隔を 12pt に設定)。ただし、表題の**註、文献目録**については本文と同じ大きさ 10,5pt にしてください。
◎ **タブの設定**：書式→段落→左下の「タブの設定」クリック→左上の空欄に「5mm」と打つ→OK

◎ **本文中での文献提示のしかた；**
この方法はあなたの論文中にその文献から直接引用した際、あるいは著者の考え方に依拠している場合に、（　）のなかに著者の苗字と出版年、そして必要な場合はコロン：のあとに引用部分やその考え方が述べられているページ数を入れてください。そして文献目録でその著者の苗字と出版年をさがすと、その文献が分かるという仕組みです。

◎ **文献目録での文献の提示のしかた**
文献目録での文献提示のしかたには、その文献が刊行されているかたちによって、少なくとも４つの方法に分けることができます。1．**単行本の場合**、2．**雑誌論文の場合**、3．**単行本論文集掲載論文の場合**、4．**ネット上のホームページ**の場合です。

1．**単行本の場合；**
まず**著者名**を入れ、改行して、**5mm のタブ**を打って**出版年**を西暦で入れて、さらにタブを入れ、**『』のなかに書名**を書き、そして**出版社名**を入れます。

例；
岩尾龍太郎
　　2000　　『ロビンソン変形譚小史』みすず書房

このPDFは FinePrint pdfFactory 試用版で作成されました http://www.nsd.co.jp/share/

訳本の場合；

ボズラップ, E.　**→苗字＋、（テン）＋名前の順番**

1967　『農業成長の諸条件』、安沢秀一, 安沢みね子訳 ミネルバ書房　**→訳者２名の場合**

クリフォード、ジェイムス　ジョージ・マーカス(編)　**→編集者名の場合は名前の後に（編）をつける**

1996　『文化を書く』、春日・足羽・橋本・多和田・西川・和爾訳、紀ノ国屋書店　**→訳者多数の場合**

ロサルド、レナート

1998　『文化と真実　社会分析の再構築』、椎名美智訳、日本エディタースクール出版部

サイード、エドワード

1993　『オリエンタリズム』上・下、板垣雄三・杉田英明監修 今沢紀子訳、平凡社ライブラリー　**→訳者のほかに監修者あり**

注意；

◎　**外人著者名は必ず、苗字を先に出す。　苗字＋、（テン）＋名前の順番に置き換えて提示する。**

◎　**本文中では(サイード** 1993)**と提示されるため、文献目録のところで、名前から先に、エドワード・サイードと提示すると見つけられないから、サイード、エドワードとすること。**

◎ **訳者名は書名の後に入れる。**

◎ **外国文献の場合、書名は斜体字にすること。**

◎ **外国文献の出版社名の提示に関しては、まず出版社の所在地→：コロン→半角ワンスペース→出版社名の順とする。**

例：

Lee, R. B. and I. De Vore (eds.)

1968　*Man the Hunter.* Chicago: Aldine

→書名は斜体字にすること、つづいて出版社の所在地→：コロン→ワンスペース空けて出版社名の順です

2．**雑誌論文の場合；**

まず著者名を入れ、改行して、5mm のタブを打って出版年を西暦で入れて、さらにタブを入れ、**「」のなかに論文名**を入れ、**『』のなかに雑誌名**を、そして巻号の数字を書き、コロンを打ち、引用した論文が掲載されている**ページ数を、例えば** 2-34 **のように**入れます→ページ数の間の「－」も半角にすること

例；

池谷和信

1996　「「伝統主義者」と「修正主義者」とのあいだの論争をめぐって-カラハリ・サン研究の事例-」、『民博通信』No.73: 64-77

清水昭俊

1992　「永遠の未開文化と周辺民族-近代西欧人類学史点描-」『国立民族学博物館研究報告』17-3: 417-488.

注意；

◎　**数字やコロンなどの記号はすべて半角**にしてください。雑誌巻号のあとのコロンを入れてページ数ですが、**コロンのあとに必ず半角でワンスペース空け**てください

◎　**外国の雑誌名は斜体字にします**

例：

Solway, J. S and R. B. Lee

1990　Foragers, Genuine or Spurious?: Situating the Kalahari San in History. *Current Anthropology* 31: 109-146.

3．**単行本論文集掲載論文の場合；**

まず著者名を入れ、改行して、5mm のタブを打って出版年を西暦で入れて、さらにタブを入れ、「」のなかに論文名を入れ、つぎに論文集の**編者名**を、例えば小川英文編と入れ、『』のなかに書名を書き、コロンを打ち、引用した論文が掲載されているページ数を、例えば 2-34 のように入れます。最後に出版社名を入れてください。

例；

加藤　剛

1993　「民族誌と地域研究－他者へのまなざし」、矢野暢編『地域研究の手法』: 97-137, 弘文堂

→論文名、編者名、書名、ページ数、出版者名の順

小川英文

1996　「狩猟採集民ネグリトの考古学ー共生関係が提起する諸問題ー」、スチュアート ヘンリ編『採集狩猟民の現在』: 183-222, 言叢社

2000　「狩猟採集民と農耕民の交流－相互関係の視角－」、小川英文編『交流の考古学』: 1-20、岩崎卓也監修『シリーズ 現代の考古学』第５巻、朝倉書店　**→編者のほかに監修者がいる場合**

4．**ネット上のホームページの場合；**

このPDFは FinePrint pdfFactory 試用版で作成されました http://www.nsd.co.jp/share/

まだ十分に定着しているとはいえませんので、レポートや論文にホームページの記述を引用することはやめましょう。しかしここでは、やむおえない場合に限り、ここで提示のしかたを統一しておきます。
まずホームページの作成者名を入れ、改行してタブ、そしてそのホームページの作成年代、さらにタブのあと、「」内にホームページの表題を入れてください。つぎにホームページの URL（http://・・・・で始まるアドレス）を半角英字で入れてください。作成者名、作成年代、表題がよく分からない場合もありますが、よく探すこと。

例；

Headland, T. N. and B. P. Griffin
1997 A bibliography of the Agta Negritos of Eastern Luzon, Philippines. Dallas, Summer Institute of Linguistics. Online.URL: http://gopher.sil.org/silewp/1997/004/SILEWP1997-004.html

以上ですが、以下にその例をあげてみましたので、参照してください。

文献目録

ボズラップ, E.
1967 『農業成長の諸条件』、安沢秀一, 安沢みね子訳 ミネルバ書房
岩尾龍太郎
2000 『ロビンソン変形譚小史』、みすず書房
加藤 剛
1993 誌と地域研究ー他者へのまなざし」、矢野暢編『地域研究の手法』: 97-137、弘文堂
池谷和信
1996 「「伝統主義者」と「修正主義者」とのあいだの論争をめぐって-カラハリ・サン研究の事例-」、『民博通信』No.73: 64-77
Kent, S.
1992 The Current Forager Controversy: Real Versus Ideal Views of Hunter-Gatherers. *Man* 27:45-70.
クリフォード、ジェイムス ジョージ・マーカス(編)
1996 『文化を書く』、春日・足羽・橋本・多和田・西川・和爾訳、紀ノ国屋書店
Lee, R. B. and I. De Vore (eds.)
1968 *Man the Hunter.* Chicago: Aldine
小川英文
1997 「狩猟採集民ネグリトの考古学—共生関係が提起する諸問題」、スチュアート ヘンリ編『採集狩猟民の現在』: 183-222, 言叢社
1999a 「考古学者が提示する狩猟採集社会イメージ」、『民族学研究』63-2: 192-202.
1999b 「東南アジア 発掘の歴史と考古学」、吉村作治編『東南アジアの華 アンコール･ボロブドゥール』: 75-89、平凡社
2000a 「狩猟採集民と農耕民の交流ー相互関係の視角ー」、小川英文編『交流の考古学』: 1-20、朝倉書店
2000b 「総論 交流考古学の可能性」、小川英文編『交流の考古学』: 266-295、朝倉書店
ロサルド、レナート
1998 『文化と真実 社会分析の再構築』、椎名美智訳、日本エディタースクール出版部
サイード、エドワード
1993 『オリエンタリズム』上・下、板垣雄三・杉田英明監修 今沢紀子訳、平凡社ライブラリー
Shott, M. J.
1992 On recent trends in the anthropology of foragers: Kalahari Revisionism and its Archaeological Implications. *Man* 27(4): 843-872.
Silberbauer, G. B.
1991 Morbit Reflexivity and Overgeneralization in Mosarwa Studies: Reveiw of E. N. Wilmsen 1989. *Current Anthropology* 32: 96-99.
清水昭俊
1992 「永遠の未開文化と周辺民族-近代西欧人類学史点描-」、『国立民族学博物館研究報告』17-3: 417-488.
Solway, J. S and R. B. Lee
1990 Foragers, Genuine or Spurious?: Situating the Kalahari San in History. *Current Anthropology* 31: 109-146.
Trigger, B.
1988 *A History of Archaeological Thought*. Cambridge: Cambridge University Press
Wilmsen, E. N.
1989 *Land Filled with Flies: A Political Economy of the Kalahari.* Chicago: The University of Chicago Press.
Wilmsen, E. N. and J. Denbow
1990 Paradigmatic history of San-speaking peoples and current attempts at revision. *Current Anthroplogy* 31: 489-524.

最後にいま一度、論文の書き方の注意点のおさらいです；

１．あなたの問題は何なのか、「はじめに」で明確にする。「以上の議論を踏まえて・・・・」を入れるためには、そ

このPDFは FinePrint pdfFactory 試用版で作成されました http://www.nsd.co.jp/share/

の上のところであなたの問題に対して、誰がどのような議論をしているのか展開しなくてはなりません。

２．「考察する」、「検討する」はとりあえず使うのはやめにしましょう。なにを、どのように考察するのか、より具体的に書くことが必要です。

３．文中での文献提示は、年代や統計などの数字に代表されるハードなデータ、そして特定の人の意見などを取り上げたときには必ず実践するようにしてください。（スチュアート 2001: 23)というかたちで。

４．みなさんの文章の中には、固有名詞が出てきていません。文献を読んで、具体的に誰が集めたデータなのか、誰が述べている意見なのか、ちゃんとその人の名前を出して議論を進めるようにしてください。

以上は、すでにみなさんに配布した「論文の書き方と形式」にある注意点ですのが、注意深く、細かい点に注意しながらレポート・論文のかたちを整えてください。

大学の論文は、まず形式を整えておけばすぐに A はもらえなくても、B くらいの評価はもらえます。しかしみなさんは、大学で良い成績をもらうため、とりあえず単位をもらうために学んでいるのではありません。基本となる形式を整えて、さらに志の高い論文をめざし、学問の秘密に触れられるような疑問の追及のしかたを心がけましょう。志の高い、批判的視点で論文を書くための注意点を以下に挙げてみました。

１．読者を意識しながら書いてください。なんのために書くのか？単位を取るために書いているのではありません。自己主張のため、自分を表現するためです。主張するために読者を説得するように書いてください。

２．あなたの問題を解決に導くため、あるいは深く考えるために書くためには、その問題を他に考え、議論している人の論文・著作をたくさん読んで、あなたの議論に組み入れていく形で、あなたの問題を深める必要があります。

３．あなたの問題こそがレポートの主役です。問題を深化させるために、他人の意見を引用しながら、しかし他人の意見に押し流されることなく、問題を議論してください。

４．あなたの問題は誰のものでもない、あなた自身が感じている疑問です。その疑問こそがあなたのオリジナリティです。レポートではオリジナリティがとても大切です。その疑問を他人の議論を参考にしながら、あなたなりに議論し、深化させていくことがレポートに書くべきことです。レポートの主導権を決して手放すことなく、常にあなたの問題、疑問を中心に据えて書き進んで下さい。あなたが問題に真正面から向き合い続けて書きすすんでいくことによって、読者をひきつけることが可能になります。

５．よいレポート、論文を書くために、事前に多くの文献を読んで、誰がどのようなデータ、資料を提供しているか、誰がどのような意見を主張しているか、ノートに書き留めるようにしましょう。わたしがみなさんに要求しているレポートや論文は１週間では書けません。
◎　ノートはＢ５版のものを使い、左のページはそのまま白紙にして、右側だけ使います。ＰＣの MS-Ward を使ってもかまいません。あとで用語検索が可能です。
◎　読む前にまず文献の題名、著者、単行本や論文集なら出版社名、雑誌論文なら雑誌名とその論文が掲載されているページ数、そして出版年を書いて下さい。
◎　文献からメモを取るときには、それが何ページに書かれていたのか、ページ数をまず先頭に書き記してください。あなたが書く論文に、その部分をあなたの論文に引用するとき、こうしてあらかじめページ数を書いておくと便利です。

今日のところは以上が注意点です。あなたの疑問に沿ったかたちでたくさん読んで、書くようにしてください。

このPDFは FinePrint pdfFactory 試用版で作成されました http://www.nsd.co.jp/share/